
貧酸素情報

鹿児島県水産技術開発センター
 平成25年 10月18日(金)

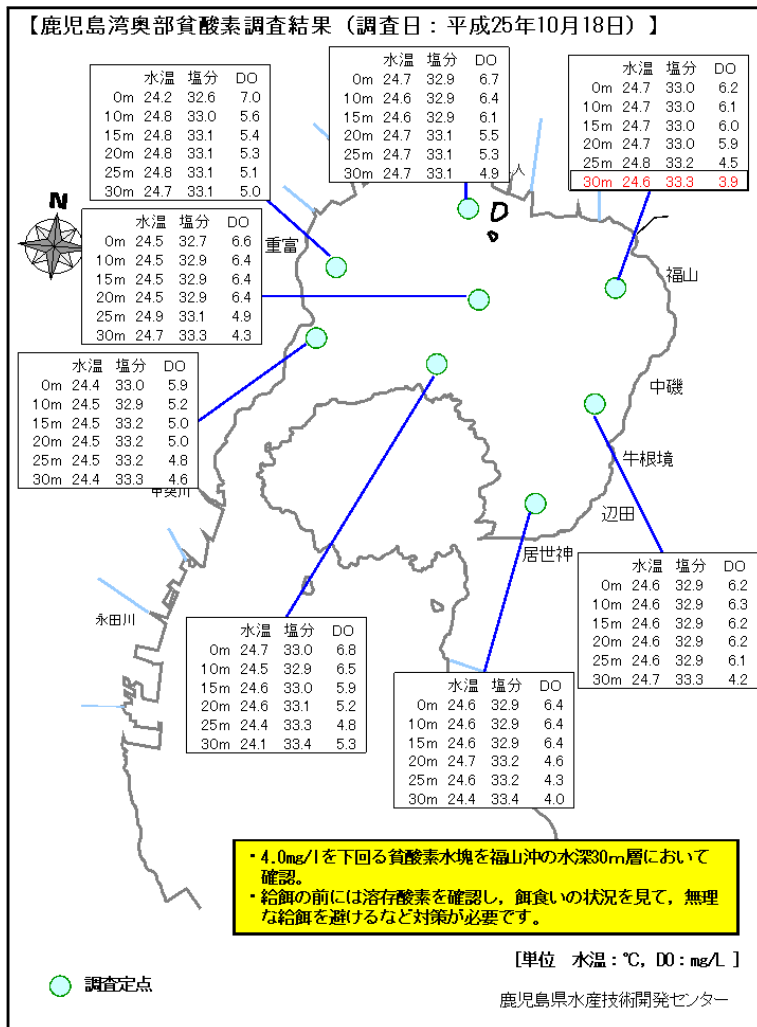
鹿児島湾 貧酸素情報 No.4

[1]10月18日の調査結果

- (1) 貧酸素水塊の状況
 鹿児島湾奥部の福山沖の水深30m層では、溶存酸素量が4.0mg/lを下回っていました(下図参照)。
- (2) 赤潮生物の出現状況
 湾奥部で珪藻類がやや多い状況でした。また渦鞭毛藻類の7'00セントラム属(コブレットリッ, シガミイダ)を6~58cells/ml確認しました。
 有害種は、シャブ マリナが3ヶ所で各1cell/ml確認されました。
- (3) 海況
 表層水温は、湾奥部で24.2~24.7℃と平年同時期並み、また、塩分については32.6~33.0と平年同時期よりやや高め、透明度は6.5~9.0mで平年同時期よりやや高めとなっています。
 水温：湾奥部平均 24.6℃ (平年値 24.7℃)
 塩分：湾奥部平均 32.9 (平年値 31.9)
 透明度：湾奥部平均 7.1m (平年値 6.5m)
 (平年値は平成16~24年の10月の平均値)

[2] 今後の貧酸素水塊の予想

今回の調査では、1ヶ所の30m層以深で溶存酸素量が4.0mg/lを下回っていました。
 今後、表層水温が更に低下し、鉛直循環が活発となると思われますが、25m以深で溶存酸素量が低めのところがみられますので、しばらくは注意が必要です。



(注意事項)

- ・ 給餌の際、魚群が遊泳すると、貧酸素層の海水が表層まで浮き上がるおそれがあります。
- ・ 過去、溶存酸素が4.0mg/lを下回った状況での給餌で、へい死事故が発生した事例がありますので、注意が必要です。
- ・ 給餌の前には、必ず溶存酸素量を確認し、餌食いの状況を見て、無理な給餌を避けた方がよいでしょう。

・ 4.0mg/lを下回る貧酸素水塊を福山沖の水深30m層において確認。
 ・ 給餌の前には溶存酸素を確認し、餌食いの状況を見て、無理な給餌を避けるなど対策が必要です。

赤潮情報(携帯電話) : <http://kagoshima.suigi.jp/akashio/i/index.shtml>
 赤潮情報(パソコン) : <http://kagoshima.suigi.jp/akashio/newHP/index.html>